

早稲田大学 政治経済学部 総合問題(英語セクション) 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	120分(日本語による長文読解1題+英語による長文読解1題+自由英作文1題)
特徴・その他	大問は2題。読解問題1題、自由英作文問題1題という形式は去年と変わらないが、IIの読解問題については変化があった。昨年は長文の内容と直接関連がなく、容易ではない計算処理を含む問題が出題された。しかし、今年は長文の内容と関連しない問題がなく、また majority judgement を用いた場合の計算方法の詳しい説明があり、計算も昨年より容易である。IIIの自由英作文は、昨年よりさらに身近なテーマとも言えるので、書くことは思いつきやすいだろう。とはいえ、比較をすることを求める問題文に対応した的確な論述をしているかどうかによって、かなり差がつく可能性がある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
II	読解問題	<p>上述したように、昨年度は「ベンフォードの法則」という長文の内容とは直接関係がない難易度が高い問題が出題された。本年度は、最後に長文の内容を発展させた計算を含む問題が出たという点では同様だが、上記の通り、長文の内容と関連して、いて、計算の難易度は下がった。また、8では出題者が長文の内容に対して問題提起を行うという昨年にはない形式の問題が出題された。1の選択肢の記述を並び替える問題は、選択肢に接続詞 But、代名詞 he、定冠詞 the (例：the protesters) など、わかりやすいヒントが多数あり、内容的にも解きやすい。2は空欄の前後いずれにもヒントがある。3については、Table 1の候補者につき、majority judgment を用いた場合の具体的な計算方法が書いてあるが、その段落をよく読み、計算を理解することが重要。これが理解できるかどうか、この大問の一つのキーポイントとなる。この計算方法に従って計算すればよい。4については、正反対の内容を表す選択肢は、どちらかが正解である可能性が高いので、(c)と(d)に着目(give a good evaluation と negatively judge、like と dislike が反対の意味)。(d)を選べば、MJ に関しては棄権や白票を投じる必要がない理由となり、文脈に合う。5は主語が Voting systems であり、投票システム一般について述べる文。(c)のみが投票システム一般について妥当し、またこれを空欄に入れば後ろともよくつながる。6は、(d)が本文の主張をズバリまとめたものであり、選びやすいだろう。7は、本文の計算方法をよく読み、まず majority grade を確定し、次に gauge を計算する。8は、(1)については、本文の計算方法を理解すれば、それほど難易度は高くはないだろう。(2)はこの大問で最も難易度が高い問題の一つである。(1)の勝者である C 以外の候補者のうち、比較的评价が高い候補者 B を最も評価している有権者小野にターゲットを絞って、長文の計算方法を適用して、計算してみるとよい。小野が C の評価を可が不可にすれば、B が majority grade で勝てる。良に評価を変えるだけなら、gauge で勝敗が決まり、C が勝つことになり、勝者は変わらない。メリハリをつけて本文を読み、計算方法と空所の前後を特にしっかり読むことが必要である。また、計算の問題は、焦ると計算間違いをしやすく、また8の(1)と(2)のように、間違えると連動して間違える場合があるので、よく確認することも重要である。</p>	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	自由英作文	<p>テーマとしては、昨年よりさらに身近な話題であるため、組みやすいだろう。比較の問題なので、music and arts と math and languages の一方の教育上の意義だけを述べても、題意に答えたことにならないことに注意。music and arts と math and languages のそれぞれに言及し、筋が通った論証をする必要がある。例えば、music and artsの方が math and languages より重要であるという立場に立つ場合は、math and languages の教育上の重要性にも触れた上で、music and arts の重要性が上回ることをしっかり論証できれば、高得点が狙えるだろう。普段から過去問や英検の問題などの問題を使って実際に答案を書いてみて、どのような問題が出て、すぐに適切な理由を挙げて、説得的な答案が作成できるように練習しておくといよい。できれば、自説の反対の立場の主張に対して、適切な反論をしながら、自分の主張を展開する練習もしておくとい効果的である。そうすれば、試験の場でも、充実した論証ができる(本年度の問題にもそれが有効)。</p>	標準